【 9 】

氏　名	尾　崎　芳　治（おざき　よしはる）
学位の種類	経　済　学　博　士
学位記番号	経　博　第　2　号
学位授与の日付	昭和39年3月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
研究科・専攻	経済学研究科 理論経済学経済史学専攻
学位論文題目	**イギリス革命における土地変革** **—近代イギリス農業・土地制度「三分割制」形成史序説—**
論文調査委員	（主査）教授 堀江保蔵　教授 穂積文雄　教授 山岡亮一

論文内容の要旨

本論文は，15世紀に貨幣地代が成立して農奴制が解体しつつあった封建的土地所有が，17世紀40年代のイギリス革命によって，どのような仕方で，またどのような勢力主体の手で，近代的所有関係に向って変革されたかを主題としたものである。

利用されている主たる史料は，革命派に属するプレスビテリアンズ，インデペンデンツ（以上議会派。旧領主・ジエントリー層）およびレベラーズ（富裕農民・小土地所有者層）の改革諸提案と，これに対する王党派の回答文書などあでって，その仔細な検討によって革命の過程が整然と描かれ，また革命の結果，旧王領や王党派諸侯の土地が，どのような手続きでどのように処分されたかが，詳細に論じられている。

こうして，著者が到達した結論を要約すると，(1)イギリス革命は主としてプレスビテリアンズに集結したジエントリー層を主体とし，レベラーズのエネルギーを利用して闘われたものであること，(2)それによって国王の絶対主義大権から議会主権への移行が実現し，同時に封建的な法=所有関係が破砕されて，農業近代化の前提となるような法=所有関係が創出されたこと，(3)その限りではブルジョア的な農業諸関係からの要請は実現したが，農民的土地保有関係は近代化に取残され，その結果，三分割制農業の成立を見るまでには，その後，19世紀の中ごろにいたる約2世紀の歳月を必要としたこと，などである。

論文審査の結果の要旨

本論文は，同一主題に関するわが国従来の研究成果に対して批判の形で書かれたものである。すなわち，わが国におけるイギリス革命の農業・土地制度史研究によれば，貨幣地代の全国的規模での成立に伴って，封建領主による封建的土地所有関係は著しく後退し，自由な独立自営農民層の形成が進行していて，この層の両極分解のうちに三分割制農業 —地主・農企業家・農業労働者による資本主義的経営— が成立しはじめたとせられ，したがってイギリス革命の反封建闘争は，独立自営農民層を基軸として闘われたものだと論じられた。これに対し，本論文では，イギリス革命における土地変革は，農民的土地私有の進展に対

応して，領主的土地所有の近代的・ブルジョア的土地所有への転化の起点となる法=所有関係，すなわち地主的私有体系を創出したこと，したがって，革命の勢力主体はジエントリーを中心とする旧領主層であったことが論証されている。しかもその論証が史料の精緻な検討にもとづいてなされている点に，まず本論文の独創性を認めねばならぬ。

つぎに本論文は，イギリス革命関係の文書・記録を行論に必要な限り仔細に検討し，また現代イギリスの歴史学者はもとより，内外のイギリス革命研究家の論著をひろく渉猟して書かれていて，資料利用の点で殆ど遺憾がない。さらに方法論においても，マルクスの所説の再解釈という点で首尾一貫しており，間然するところがない。以上の諸点においても，本論文は高く評価さるべきであろう。

もつとも，本論文自体，批判の余地をもつている。本論文において，封建的か近代的かの主要な基準として取上げられているのは，土地所有関係である。それが生産諸関係の法制的表現であるとすれば，これに着眼して近代化過程を論ずることは必ずしも不当ではない。しかし，所有の近代化を要請したはずの農業経営自体の近代化（ブルジョア化）については，本論文では殆ど触れられていない。すなわち，農業のブルジョア化を「資本が土地所有をとらえつつそれを自らに従属させる過程」であると定義しながら，その具体的事実に関する説明がなされていないのである。一般に本論文では，社会階級諸関係の描写に努力を集中するあまり，経済関係や経営事情は所与のものとして舞台裏にかくされている。かくて，本論文は，経済史であるよりも，社会史たるの色彩が強い。というよりも，社会史たる点にむしろ本論文のすぐれた特色がみられるのである。

要するに本論文の主要な功績は，イギリス農業の近代化過程という場においてイギリス革命の首肯しうる位置づけをした点にある。

本論文は経済学博士の学位論文として価値あるものと認める。